

## SPOD-FD マップ作成までのプロセスとその成果

杉田郁代<sup>1)</sup>、吉田 博<sup>2)</sup>、仲道雅輝<sup>4)</sup>、上月翔太<sup>4)</sup>、塩川奈々美<sup>2)</sup>、高畑貴志<sup>1)</sup>、蝶 慎一<sup>3)</sup>

- 1) 高知大学 学び創造センター      2) 徳島大学 高等教育研究センター  
3) 香川大学 大学教育基盤センター      4) 愛媛大学 教育企画室

### 1. はじめに

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD) は、加盟する高等教育機関の FD・SD 事業の連携と開発を行う連携組織である。2008 年度文部科学省戦略的・大学連携支援事業 (16 大学による共同申請) の採択を受けて発足し、2022 年度現在、四国地区の 35 の高等教育機関 (四国地区に一部の学部等を置く大学を含む) によって構成されている (SPOD 2022)。SPOD は、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的・力量をもった「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出することを目指しており、2009 年度から FD プログラムを共同開発し、加盟校に開放している。2021 年度は、SPOD フォーラム、新任教員研修、SPOD 講師派遣事業の他に 43 の FD プログラム (FD/SD 共通、プレ FD を含む) を実施しており、延べ 984 名が参加し、満足度は全体で 96.9% であった (SPOD 2022)。

2020 年度以降は、遠隔で実施するプログラムが増加し、2021 年度は 32 のプログラムが遠隔での実施、または遠隔配信を含む形式で実施され、909 名 (約 92%) が遠隔での参加であった。FD プログラムが遠隔配信されることとなり、実施校以外の教職員の参加が容易になり、これまで FD に参加してこなかった教職員の参加も見られるようになった (吉田ほか 2021)。また、これまでの FD は、主にコア校 (愛媛大学、香川大学、高知大学、徳島大学) の担当者によって開発されたプログラムを加盟校に開放していたが、遠隔による FD プログラムでは、複数の大学が共同開発した FD を加盟校に提供できるようになった (吉田ほか 2022)。また、2021 年度に発足した SPOD 将来構想において、オンライン FD の共同開発を検討するチームが立ち上がり、大学を超えた担当者による

FD プログラムの開発が始まっている。

本研究は、SPOD 講師派遣事業を含む 2 時間程度で実施している FD プログラムにおける FD マップを開発することで、SPOD で実施している FD プログラムの現状を可視化するものである。これにより、今後の FD プログラム開発における有益な資料となるとともに、加盟校の教職員自身が必要としている FD プログラムにアクセスしやすくなることを期待できる。

### 2. FD マップの開発

FD マップは、国立教育政策研究所 FDer 研究会による「FD マップのフレームワーク」(国立教育政策研究所 FDer 研究会編 2009) を参考に、SPOD が提供する FD プログラムを分類することで作成した。マップの構成は横軸にレベル (ミクロ、ミドル、マクロ)、縦軸に 4 つの段階 (Ⅰ導入、Ⅱ基本、Ⅲ応用、Ⅳ支援) とした。分類する FD プログラムは、2022 年度現在 SPOD で提供している FD プログラムのうち、2 時間程度で実施している開放プログラム 55 件、SPOD 講師派遣プログラム 37 件、学内限定プログラム 19 件である。

FD マップの開発にあたっては、各コア校の FD 担当者が集まり、3 回にわたってミーティングを行った。開発手順として、まず自大学で開催する上記の FD プログラム (各コア校で実施した開放プログラム、SPOD 講師派遣プログラム、学内限定プログラム) を記入したエクセルのシートを事前に作成し、第 1 回ミーティングに持ち寄った。オンラインホワイトボード Miro を利用して、前述の FD マップのフレームワークを参考に、分類・整理を行った。第 2 回ミーティングでは、第 1 回ミーティングを受けて、分類した内容に関する検証を行った。その結果、現行の FD プログラムは

マイクロ I・II に偏っている傾向が確認された。偏りのあるマイクロ I については、教授法、授業評価・授業改善、学習支援、学生支援、研究指導、その他と 6 分類に整理しなおした。

第 3 回ミーティングでは、第 2 回ミーティングを受け、6 分類に整理したものの検討を行った。その結果、6 分類の下位分類として、教授法、AL、双方向コミュニケーション、オンライン、学習評価の 5 分類に分類することができた (図 1)。

ここまでの 3 階層の分類の検討は、5 名の高等教育を専門とする研究者によって行われた。

### 3. 成果と今後の展望

本マップの開発にあたり、FD プログラム開発の視点、加盟校教職員の視点の 2 つの視点を見出すことができた。

#### (1) FD プログラム開発の視点

FD プログラムを開発する視点として、現在提供する FD プログラムの偏りに気づくとともに、4 つのコア校の強みと弱みが可視化された。

FD プログラムが十分に開発されていない「弱み」が可視化されたことにより、各コア校は自大学において不足するプログラムの補填を検討することができる。また、自大学で開講できないプログラムについては、他大学の既存プログラムの活用によって補うことも可能である。本マップを活用することで、コア校間における FD プログラムの提供や連携、新規プログラム開発の一助となる

だろう。

#### (2) 加盟校教職員の視点

また、SPOD 加盟校教職員においても利点がある。本マップを確認することで、コア校全体でどのような FD プログラムが実施されているのかを容易に把握することができるほか、個人の問題意識や興味に基づき FD プログラムにアクセスすることも可能となる。

今後は各コア校間の連携や加盟校教職員によって本マップが広く利活用されることを念頭に、FD の実施形態 (オンライン開催への対応等) や対象者 (対象職種、学外への対応等) に関する情報の紐付けについて検討する必要がある。

### 参考文献

- 1) SPOD (2022) 「令和 3 年度四国地区大学教職員能力開発ネットワーク活動報告書」
- 2) 吉田博・飯尾健・塩川奈々美 (2021) 「New Normal の FD セミナー開発」 SPOD フォーラム 2021 オンデマンドセッション (2021. 8. 25-27)
- 3) 吉田博・飯尾健・塩川奈々美 (2022) 「気軽に参加できるオンライン FD の開発とその成果」 SPOD フォーラム 2022 ポスターセッション (2022. 8. 26)
- 4) 国立教育政策研究所 FDer 研究会編 (2009) 「大学・短大で FD に携わる人のための FD マップと利用ガイドライン」

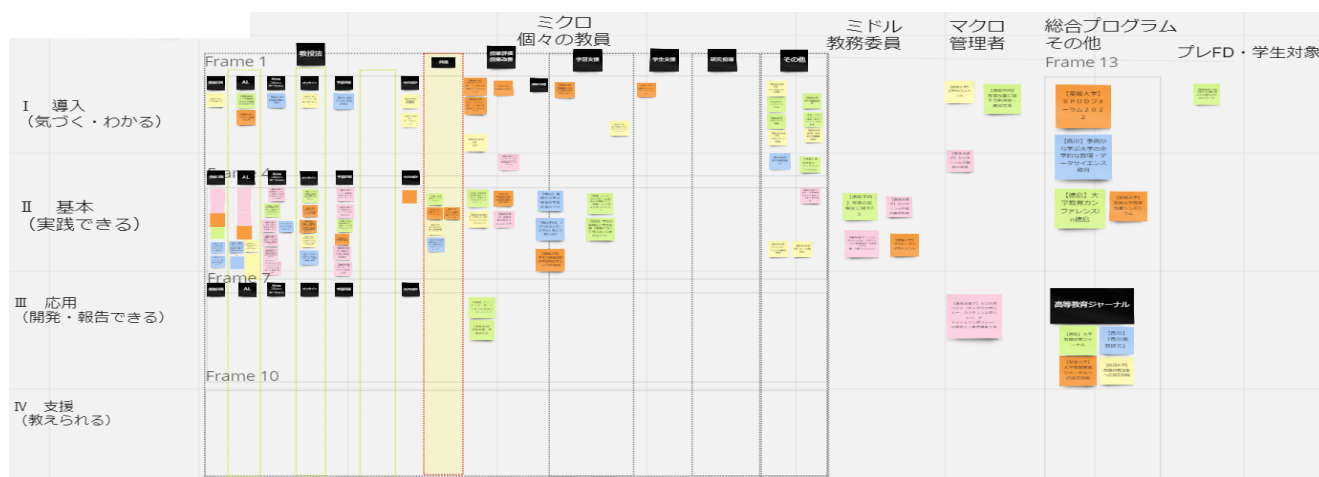


図 1 SPOD-FD マップ